

# 世界に開かれたゲートウェイ関西国際空港

## 1 現状

1994年9月4日に日本で初の海上24時間空港として泉州沖約5キロメートルに開港しました。近年、国内の景気低迷及びアジアにおける経済危機等の影響を受け、就航便数等はやや足踏み状態にあるものの、開港後5年間のスパンで見れば順調に伸び、関西圏のみならず日本全体のゲートウェイとして発展してきました。

## 2 事業

### (1)1期パート2事業

1期島の施設につきましては、概ね12万回の年間離発着回数に対応した施設で開港しました。1期パート2事業として、16万回の処理能力に対応した旅客ターミナル、エプロン、給油施設の拡充や新型機ボーイング777-300に対応した誘導路の拡幅等の工事が順次、実施されています。

### (2)2期事業

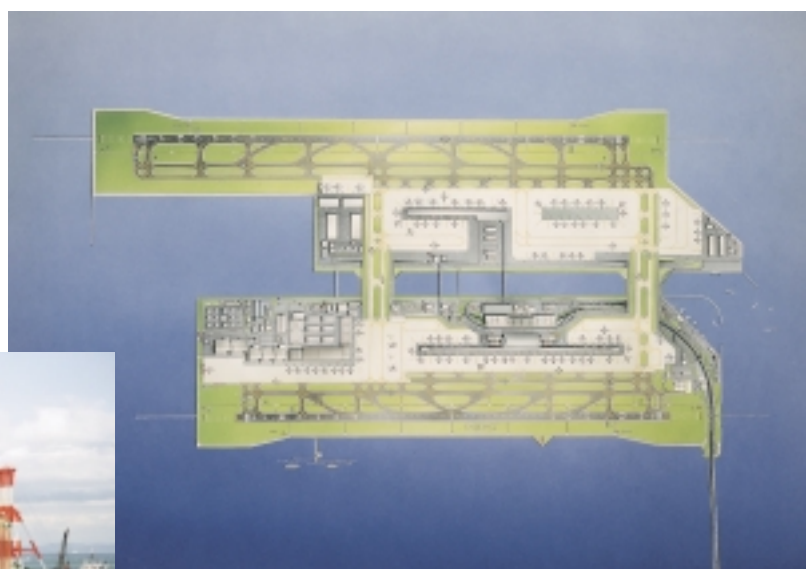
現空港は滑走路1本で運用され、21世紀初頭には処理能力が限界に達すると予想されていることから、現在の空港島の沖合に2期事業として4,000メートルの平行滑走路及び関連諸施設の整備が計画されています。

1999年7月に現地工事に着手された2期事業は、2007年に平行滑走路及び18万回に対応した施設の供用開始を目指し、用地造成事業については関西国際空港用地造成株式会社を、滑走路等の上物施設整備については関西国際空港株式会社を事業主体とする、いわゆる上下分離方式により工事が進められています。

用地造成工事は、1期工事時に比べて平均水深、埋立土量、平均沈下量ともに大きく、大規模かつ急速施工となるため、GPS、情報処理技術の活用や夜間工事の実施による施工の効率化が図られています。



現在の空港島から見た用地造成工事



全体計画図  
上が現在建設中の2期島、下は現在の空港島